

神話スライド s e t シリーズ

七夕物語

スライド枚数 : 11枚
時間 : およそ3分から5分
イラスト : 三善 和彦
※ 音響テープあり

LIBRA CORPORATION

七夕物語



1.

昔むかし、天の川の西の岸に、美しい娘がいました。
天のみかどの娘で名前を織り姫といました。
織り姫の仕事は、その名の通り、機織りをするこ
と。
天に住む人々の着物を縫うために。
織り姫は毎日休むことなく、機織りをしていたの
です。



2.

そんな娘をみて、天のみかどは、
ふと、こんなふうに思いました。
これでは姫がかわいそうだ。
そうだ、いつまでも一人では寂しいだろうから、
あの子に夫を持たせてやろう」

3



3.

いっぽう、天の川の東の岸には彦星という若者が
いました。
働き者で、いつもせっせと牛の世話をしています。

天のみかどは、一目で彦星が気に入り、織り姫と
結婚させることに したのです。

+音変わり



4.

とても仲のよい夫婦になった織り姫と彦星。

ところが、仲がよすぎて二人で遊んでばかり。
ちっとも仕事をしなくなってしまったのです。



5.

織り姫が機織りをしないので、天の人々は着物を新しくすることができません。

彦星の飼う牛も、汚れほうだいです。

+音終わり



6.

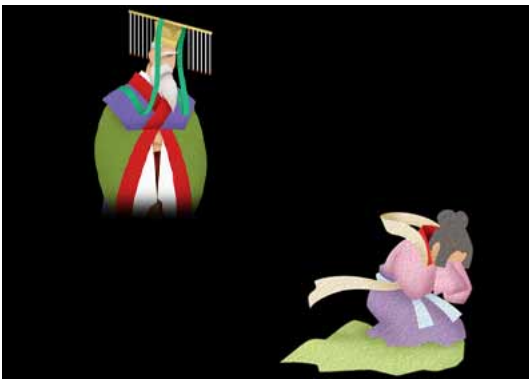
最初は、我慢していた天の神様も、とうとう腹を立て

「もう一緒に暮らすことはゆるさん！

元通り、東と西に分かれて暮らすがいい！」

と、二人を引き離してしまったのです。

+音始まり



7.

それからの毎日、織り姫は泣いてばかり。

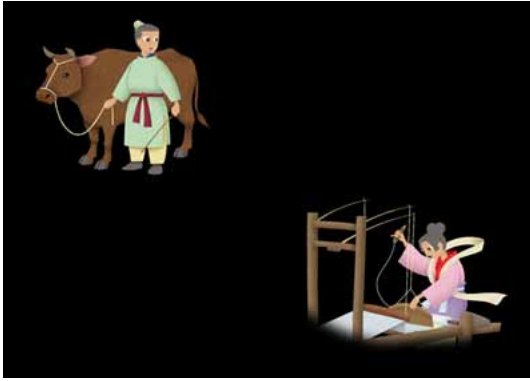
仕事もなかなか進みません。

そんな様子に、さすがにかわいそうに思った、
天のみかどはいいました。

「織り姫よ、そんなに彦星が恋しいならば、

1年に1度7月7日の夜にだけ、会うことを
許してやろう」

+音変わり



8.

それからは、1年に一度会う日を楽しみに、二人は仕事に励み出すようになりました。



9.

でも、雨が降ると天の川の水が増えてわたれなくなってしまう。

そんなときは、どこからともなくたくさんのカササギが飛んできて天の川に鳥の橋が架かるのです。



10.

これが七夕祭りの始まり。

せっかくのチャンスに、雨が降らないように、そして、織り姫にあやかって、縫い物や字が上手になるように・・・

短冊を笹に飾り、願い事をするようになったのです。

音終わり